

(別紙5)

調査報告書

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日	2007 年 9 月 27 日
調査実施の時間	開始 10 時 0 分 ~ 終了 15 時 0 分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム花の里 (福島県)
-------------------	-----------------------

評価調査員の氏名	氏名 <u>熊谷まゆみ</u> 氏名 <u>大野恒夫</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u> 氏名 <u>佐藤卓也</u> ヒアリングを行った職員数 (1 人)

※記入方法

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

※項目番号について

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	
法人名	株式会社マインド
事業所名	グループホーム花の里
所在地	福島県本宮市字蛭田 4 6 - 1 電話 0 2 4 3 - 3 3 - 5 0 0 1
評価機関名	会津医療生活協同組合
所在地	会津若松市東千石 1 - 2 - 1 3
訪問調査日	2007年9月27日

【情報提供票より #####

(1) 組織概要

開設年月日	平成 1 6 年 9 月 1 日
ユニット数	ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	人 常勤 6 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 1

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷 金	有 (円) ● 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300 円		

(4) 利用者の概 9月1日現在

利用者人数	7 名	男性 3 名	女性 4 名
要介護 1	0	要介護 2	1
要介護 3	4	要介護 4	2
要介護 5	0	要支援 2	0
年齢	平均 85 歳	最低 75 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人渡辺クリニック 大道寺歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

駅から徒歩2分の住宅街にあり明るい色調の木造家屋は近隣の雰囲気と溶け込んでいる。利用者の表情は明るく穏やかで職員に信頼を寄せて安心して生活している様子が伝わってきた。職員の行動や表情も穏やかでホーム全体が心地よい雰囲気であった。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	改善項目について全職員で話し合い改善に取り組んでいる。運営推進委員会にも議題としてとりあげ話し合いを深めている。改善にむけてのワークシートなどの記録があればなおいいと思われる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	職員は自己評価及び外部評価を実施することの意義を理解し項目別にそれぞれの担当職員で評価に取り組んでいる。全項目全職員で討議するとなおいっそう自己評価が活かされると思われる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5)
	運営推進会議を定期的開催し折々の課題について話し合っている。外部評価の改善項目についても報告し話し合いをしている。課題改善のためのモニター的役割を期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	毎月家族に写真入の近況報告をしたり電話などで情報交換をしている。面会時や家族会時、また運営推進会のメンバーにもなっており意見など出しやすい環境になっている。家族が意見や苦情を言うことはホームの質の改善のために有意義であることを家族に伝えて欲しい。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	町内の役員や女性部会などの支援が日常的に行われている。子どもたちとの交流もあり地域に溶け込んでいる。町内会に入会しさらなる地域への融合を期待したい。

2. 調査報告書

主任調査員氏名 熊谷まゆみ

／ 同行調査員氏名 大野恒夫

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	私たちは「心」のこもった良質なサービスの提供を通して、お客様の自立を支援し、豊で住みよい地域社会の実現に貢献しますという理念をかかげている。	○	これまでの基本理念に加えて地域密着型サービスとしての役割を目指した具体的な理念を作り上げて欲しい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送り時に職員で理念を唱和し常に意識付けをしている。		日々のサービスの提供場面のふり返りの時に理念が反映されているか話し合い、実践に生かして欲しい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭やお祭り、盆踊り等に積極的に参加している。児童館の子どもたちとも日常的に交流が行われている。		町内会に入会し地域の一員としての地域活動への参加を期待したい。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を伝え全員で自己評価に取り組んでいる。外部評価の結果をふまえ改善させている。		改善計画について全職員の話し合いの結果や改善のための取り組みの流れなどの記録をとることを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の活動報告や外部評価の結果など報告し参加者から質問、意見、要望などを受け双方向的な会議になるようにしている。		改善計画のモニター的な役割も期待したい。
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	担当スタッフより月1回の写真入りホーム便りや電話などで近況報告し、面会時にも家族と話し合っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の行事に合わせ家族会を行い意見交換ができる環境を作っている。		家族が意見や要望を施設に伝えることは運営上大切なことであることを家族に理解してもらおう。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者、家族の信頼関係の維持のために異動は極力避けておりやむをえない場合は十分な引継ぎ時間をとっている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年2回の社内研修を行うほか外部の研修には交替で職員が参加し、全職員に報告し周知している。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会に入会しており他事業所と交流、情報交換をし、質の向上を図っている。</p>		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)</p>			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており普段から利用者に教えてもらう場面も多くお互い協働しながら生活している。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりのなかで声を掛け、言葉や表情から思いや意向を把握している。		状態の確認、検討が介護計画の変更につながっていないので、計画の見直しが的確に行われるように、一連の流れについて統一するよう話し合っ欲しい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族には日頃のかかわりの中で思いや意見を聞き、職員はカンファレンスを行い介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間が終了する前に見直し、状態の確認、検討は行っている。	○	計画の見直しが効果的に的確に行えるよう全職員で作業の流れを再考して欲しい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医になっている。家族が受診の際は身体状況などについて情報提供し、結果報告も受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のケアについてはまだ検討していないが必要と感じている。	○	まづ重度化や終末期ケアのありかたについて全職員で話し合い方針を作って欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導の声掛けなど気づかれないようさりげなく行っており対応にも誇りやプライバシーが守られていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調や気持ちを配慮しながら思い思いの過ごし方を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が一緒になって調理や配膳、後片付けをしていた。パンが好きな方にはご飯でなくパンがもりつけられていた。	○	グループホームの特性を踏まえて利用者と一緒に食事を楽しむことについて話し合っ て欲しい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には午前中入浴になってはいるが利用者の希望や状況に応じていつでも入浴支援ができる体制になっている。		ホームに入居する前の入浴の習慣に近づけて欲しい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	日常の家事や趣味、外出、行事参加などやりたいこと、やれることをを気持ちよくやって いただいている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	食材の買出しや散歩、外食など外出の機会を 多く作っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
		○鍵をかけないケアの実践	口中鍵はかけないで手、ノックで対応して、		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
26	66	運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中鍵はかけないでチャイムで対応してい る。外出しそうな利用者には声掛け、見守り を多くしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練には事業所だけでなく運営推進委員や地域住民の人の協力を得ている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェックし職員で共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じさせる飾り付けがなされ、不快な音や臭いもなく居心地のよい雰囲気であった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や使い慣れた家具など持ち込まれていた。		家族と話し合っ居室にもっとなじみのものを持ち込み生活感を出して欲しい。

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

グループホーム 花の里

記入担当者名 計画作成担当者 阿部 洋子

評価結果に対する事業所の意見

なし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。